

子どもたちが主体的に住宅の安全を考え、行動を促す「家の中の安全を考えよう ～安全教育授業プログラム～」について

株式会社LIXIL 安全・品質統括部

日本では、家の中の事故で年間約1万3,700人が亡くなっており、この数は交通事故による死者の約4～5倍に上ります^{*}。住宅建材・設備機器大手の株式会社LIXILは2014年から小学校高学年を対象に、家の中に潜む危険を知り、子どもたち自身が事故防止について考える「安全教育授業プログラム ～家の中の安全を考えよう～」(以下、本プログラムといいます。)の出前授業および教材の無償配布を行っています。今年で10年目を迎えた本プログラムについて、株式会社LIXIL 安全・品質統括部ご担当者様にお話を伺いました。

※出典：厚生労働省「人口動態統計 上巻 5-35 家庭における主な不慮の事故による死因（三桁基本分類）別にみた年齢（特定階級）別死亡数及び百分率」（令和2年）及び警察庁交通局「令和2年中の交通死亡事故の発生状況及び道路交通法違反取締り状況等について」

▶本プログラムを実施する背景やその概要について教えてください。

■住宅での事故防止につなげたい

住宅用建材・設備機器メーカーである弊社は、消費者に安全な製品を提供することはもちろん、その製品が消費者に渡った後も、安全にご使用いただけるよう働きかけ、事故の防止を促すことも大切な役割であると考えています。作り手としての、安全に対する使命感が本プログラムの根底にあります。

住宅で発生した死亡事故の犠牲者に多いのが、高齢者や子ども等の社会的弱者です。これを受け、本プログラム「家の中の安全を考えよう」は、それまで大人向けに実施してきたセミナーでの知見を生かし、対象を小学生などの子どもたちに広げた安全教育授業プログラム（消費者教育教材）です。2014年より実施している本プログラムは、家の中における身近な事故を再現したドラマ（動画）およびワークシート（教材配布の場合は、指導手引きも加わる。）で構成されています。当初は教材を配布するのみでしたが、建材メーカーの視点をより生かそうと出前授業形式でのプログラムも実施してきました。

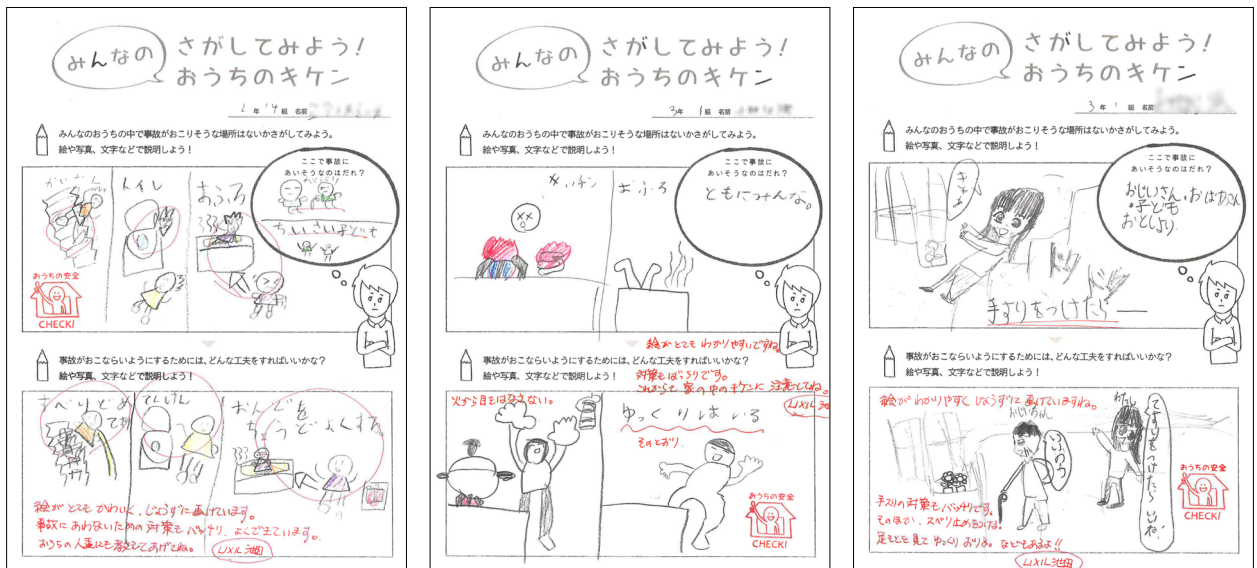
出前授業では、まず動画を視聴し事故を防ぐ方法を考えます。ドラマの主人公は危険を予知する

不思議な力を持った小学6年生の女の子で、予知した事故から家族を守るにはどうすればいいかを同年代の視点で子どもたちに問いかけます。事故が起こりそうなその瞬間ごとに映像を止め、子どもたちに意見を出し合ってもらいます。



本プログラム出前授業の様子。

出前授業の後、子どもたちは宿題の形でワークシートに取り組みます。その際社員は、「家に帰ったら今日勉強したことを生かして家の中をパトロールしてきてください」と声かけをします。自宅のどこで、誰が危険な目に遭いそうか、具体的にどのようにしたらよいかという対策まで考えてもらいます。ワークシートは先生が取りまとめ、弊社宛に送ってもらい、1枚ずつコメントを書いて約1か月後に返却しています。自宅での日常生活に潜む事故を自分事として捉え、授業内容を振り返りながら事故防止について主体的に考えるきっかけとすることがねらいです。



本プログラムを受講した児童のワークシート。添削は、実際に出前授業を担当した株式会社LIXILの社員が行っている。

▶制作にあたり、工夫した点を教えてください。

■授業内容は年齢に合わせて細かくアレンジ

受講者の年齢や時間、先生方のニーズに合わせた出前授業のアレンジにも力を入れています。昨年からは、新たに小学校低学年向けのアニメを制作し、自分自身を守るというところに焦点を置いて授業をしています。アニメでは扉での指はさみや、キッチンでの火傷など子どもに多い事故を3つに絞って取り上げました。高学年向けには前述のドラマで、階段での転落やヒートショックなどを紹介し、家族の安全を見守るという立ち位置を意識しています。中学生には建材の事故だけでなく、シックハウス症候群や一酸化炭素中毒など、今後一人暮らしを始めていく上で起こりうる事故も教えます。



小学校1～2年生用教材

リクボと学ぶ 家の中の安全 おけまる!

小学1～2年生用の教材。家の中の安全についてアニメを用いて説明している。

▶本プログラムの成果について教えてください。

■大人にも学びがあると好評

出前授業には2014年からの9年間で延べ225回、約6,800人の子どもたちが参加しました。2023年度は年度途中の4～10月で既に30校で約50回、約1,500人が受講し、過去最多となっています。

参加した子どもからは「交通事故に比べ家の中の事故がこんなに多いとは驚いた」、「自分の家の中にもキケンな所がたくさんあったのでびっくりした」といった感想が出ています。先生の感想には「『危険は内よりも外にある』という子どもたちのこれまでの認識を改めることができた」、「自分たちの家の様子を思い浮かべながら学ぶことができ、家に帰ってから家族との会話につながっているようだ」といったものがありました。他に先生の声で多いのは「大人も学べる内容だった」というものです。翌年に保護者参観でやってほしいとか、保護者と子どもがペアで授業を受ける企画をやりたいといった要望もいただいています。



株式会社LIXILでは、「家の中の安全を考えよう」の講義を消費者団体や高齢者向けにも行っている。対象者ごとに内容を変えた講義は好評を博している。

■リモート授業には教育格差是正も

コロナ禍では出前授業が難しい状況にも直面しました。そこで、2022年からはリモート形式での出前授業を始めました。きっかけは感染症対策でしたが、現在は過疎地の小学校を対象として取り組んでいます。

これまでの出前授業とは内容を変え、教材を新たに制作しました。まず、インプットとして、家の中の危険とそれに対応する弊社の商品開発事例を紹介します。それをもとに児童は、アウトプットとして学校に潜む危険を分析し、どのような製品があれば事故防止に資するかを検討します。商品開発という視点を新たに取り入れたことで、「安全」をテーマとしたものづくりの面白さにも触れられる構成となっています。検討結果はリモートで我々に発表してもらおうのですが、小さなアイ

デアが事故防止に大いに役立つこともあり、我々も驚かされることがあります。

この取組をあえて過疎地の小学校で展開する理由として、大手企業との交流が容易な都市部との教育格差の是正が挙げられます。なお、同教材は静岡大学塩田研究室様、一般社団法人プロフェッショナルをすべての学校に様との共同で開発されました。

▶本プログラムの今後の展望について教えてください。

より多く子どもたちが参加できるようなプログラムとすることや、家の中の安全をより自分事として捉え、生活に生かせるような内容を追求したいです。例えば、小学校高学年向けには危険な場面を具体的に想定し、対策を考えるワークショップ、中学生向けにはグループワーク形式で仲間の意見を聞きながら、安全のアイデアを探求するような授業展開を検討しています。

▶消費者教育を担う先生方や、一般消費者の皆さんへメッセージをお願いします。

株式会社LIXILでは、大人から子どもまであらゆる年代を対象に、製品安全のセミナーや授業を展開しています。聴衆者・受講者の年代や実施時間、また先生方のニーズに合わせ授業アレンジも可能です。お気軽にご相談ください。

もっと知りたい方はこちら！

株式会社LIXILホームページ「家の中の安全を考えよう ～安全教育授業プログラム～」:

https://www.lixil.co.jp/corporate/sustainability/community/education/ed_safety.html

消費者教育ポータルサイト「講師を探す（団体情報バンク）」株式会社LIXIL様:

<https://www.kportal.caa.go.jp/dispatch/001241/>